

<b>Course number</b>	U-LAS70 10001 SJ50				
<b>Course title (and course title in English)</b>	ILASセミナー : 社会人類学調査法 ILAS Seminar : Social Anthropological Research	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Institute for Liberal Arts and Sciences Professor, Iwatani Ayako		
<b>Group</b>	Seminars in Liberal Arts and Sciences	<b>Number of credits</b>	2	<b>Number of weekly time blocks</b>	1
<b>Class style</b>	seminar (Face-to-face course)	<b>Year/semesters</b>	2024・First semester	<b>Quota (Freshman)</b>	25 (10)
<b>Target year</b>	Mainly 1st year students	<b>Eligible students</b>	For all majors	<b>Days and periods</b>	Thu.2
<b>Classroom</b>	3A, Yoshida-South Campus Academic Center Bldg. North Wing			<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>Keyword</b>	ケア / 医療 / 人類学 / 病い / 倫理				

(Students of Faculty of Integrated Human Studies cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)

### [Overview and purpose of the course]

本講義では、新自由主義的経済がグローバルに浸透するなか、経済的な合理性によって切り捨てられがちな慢性疾患や終末医療、医療・社会制度によって作りだされる精神疾患の問題を取り上げ、疾患を抱える人々とともに生きることについて、人類学的な立場から考察する。授業で取り上げるのは、医療人類学の基礎的な文献と、ブラジルで死を待つ人々の施設を描いた民族誌である。ケアの実践を特定の施設や家族に負わせることで人々を管理する現代の「生 権力」のあり方を批判的に捉え、誰もがかかりうる病いとともに豊かに生きる行為実践としてケアをとらえることを目指す。

### [Course objectives]

- ・現代の医療システムがはらむ社会経済的な問題を把握できるようになる。
- ・ケアという実践を特異な医療行為としてではなく、ひとりひとりの日常生活に関わる身近で創造的な実践として考察できるようになる。
- ・他者や環境へ沈潜し応答するなかで、いかに民族誌的な発見や問題提起がなされうるのか、具体的な事例から理解する。

### [Course schedule and contents]

授業の前半（第2回～第8回、各回は章のタイトルを示す）は、現代の医療人類学を牽引するアーサー・クラインマンの『ケアをすることの意味 病む人とともに在ることの心理学と医療人類学』を精読し、ケアをめぐる人類学的な視点について理解を進める。後半は、ブラジルの死を待つ施設で人類学者ジョアオ・ビールが収容者の女性との出会いを通して生み出された民族誌『ヴィータ 遺棄された者たちの生』を精読し（第9回～第14回、各回は部のタイトル）、現代の医療・経済システムのひずみが私たちに投げかける、他者とともに生きることの意味について具体的に考察する。

- 第1回 講義と講師の紹介
- 第2回 ひとりの心理臨床家の考える人間の生とアーサー・クラインマンの存在
- 第3回 21世紀における感性と主観性の変容
- 第4回 悲劇そしてケアをすること
- 第5回 不治の病いを生きる人へのケア
- 第6回 病いと人間的体験、耐えるということ

Continue to ILASセミナー : 社会人類学調査法(2)

## ILASセミナー：社会人類学調査法(2)

- 第7回 ケアをすること、道徳的・人間的体験としてのケアの実践
- 第8回 クラインマンから学んだいくつかのこと 臨床人類学が医療やケアにもたらすもの
- 第9回 はじめに、ヴィータ
- 第10回 カタリナと文学
- 第11回 医療記録
- 第12回 家族
- 第13回 生物学と倫理
- 第14回 辞書、おわりに
- 第15回 フィードバック

### [Course requirements]

他の人類学に関する講義を同時に受講していることが望ましい。

### [Evaluation methods and policy]

授業への出席が前提となる。講義内での受講生の報告（60％）、ディスカッションへの参加状況（40％）で評価する。

### [Textbooks]

皆藤章、アーサー・クラインマン、江口重幸 『ケアをすることの意味 病む人とともに在ることの心理学と医療人類学』（誠信書房、2015年）  
ジョアオ・ビール 『ヴィーター遺棄された者たちの生』（みすず書房、2019年）

### [References, etc.]

（References, etc.）

Introduced during class

### [Study outside of class (preparation and review)]

- ・購読担当者以外も、受講生は購読箇所をあらかじめ読んで授業に臨むこと。
- ・購読担当者は、文献に登場する概念や用語の背景も調べたうえで購読担当章の内容を要約し、自分の意見もまとめて発表すること。
- ・受講生は授業で提起された問いを、関連文献の講読によって深めることが期待される。

### [Other information (office hours, etc.)]

- ・総合人間学部の学生は、別途選抜を行うので、総合人間学部便覧のシラバスを確認のうえ第1回目の授業に出席すること。
- ・授業中、疑問点などは積極的に質問すること。